

2025大阪・関西万博会場で ポルトガル館×和歌山県 コラボイベント開催！

ポルトガルのアルト・ドウロワイン生産地域（世界遺産）と、和歌山県のみなべ・田辺の梅システム（世界農業遺産）は、互いに長い年月にわたり持続可能な農業を営み、生態や文化を継承しています。

また、ポルトガルのアゾレス諸島では、日本から持ち込んだ杉による林業が盛んであり、和歌山もまた、過去には「木の国」として全国に知られ、現在では紀州材をはじめとする林業の盛んな地域です。加えて、世界から愛されるお酒を生産している地域でもあります。

この共通項をポルトガル館と和歌山県でコラボし、大阪・関西万博で発信することにより、互いの地域の魅力発信と相乗効果を狙います。

記

◆開催日時：2025年7月8日（火）14：00～

場 所：大阪・関西万博会場内 ポルトガル館多目的スペース

内 容：アルト・ドウロワイン生産地域及びみなべ・田辺の梅システムの取組みを展示し、互いの名産であるワインと梅酒の試飲を実施
アゾレス諸島の杉のストーリー、和歌山県の木材利用の紹介
※試飲は数量がなくなり次第終了。

取材申し込みについて

取材ご希望の方は、別紙にて7月6日(日)までにお申込ください。

◆当日スケジュール

14:00～ オープニング（ベルナルドポルトガル館長、中瀬万博推進担当参事が挨拶）

14:10～ 開場（展示、試飲）

18:00 終了

アルト・ドウロワイン生産地域…ポルトガル北部のワイン生産地域で、ドウロ川の上流に位置し、急峻な丘陵地帯にブドウ畑が広がります。ポートワインが世界的に有名で、2001年にはその歴史的・文化的価値が認められ、ユネスコの世界遺産に登録されました。



みなべ・田辺の梅システム…薪炭林を残しつつ、山の斜面に梅林を設置することで水源涵養や崩落防止などの機能を持たせながら高品質な梅が生産されていること、梅の花の受粉におけるニホンミツバチの利用や里山・里地の自然環境の保全により豊かな農業生物多様性を維持していることが評価され、2015年に世界農業遺産に認定されました。



アゾレス諸島…ポルトガル沖約1,000kmの大西洋沖に浮かぶ9つの島々で構成され、サン・ミゲル島を中心に日本から持ち込まれた杉による林業が行われている。



和歌山県の取組み…木製ガードレールや直根苗など、持続的で環境に配慮した取組を紹介します。



担 当 者	万博推進課 長谷川・白草
連 絡 先	073-441-2703